

## 「令和7年度 河内地区地域連携教員研修兼地域コーディネーター研修」の報告

日時：令和7年7月10日(木) 14:00~16:10  
場所：宇都宮市立南図書館サザンクロスホール  
参加者数：154名のうち宇都宮市から137名  
(教職員85名, 地域学校協働活動推進員52名)  
内容：講話・演習  
今こそ聞きたい！学校を核とした地域づくり・地域とともにある学校の本質  
講師：一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏



### 1. 「学校を核とした地域づくり」とは？

学校という場を核とした地域(保護者や地域住民)と連携・協働の取組を通して、子どもたちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、地域づくりを行っていくことです。地元の子どもの育成や学校を支援することによって、地元の大人たちが元気をもらう、そして、地元の人たちがより親しくなり、仲良く暮らせるようになります。

「学校を核とした地域づくり」とは、  
学校教育や子どもの育成に関わることを通じて  
地元の人々のつながりをしっかりつくることです！



「学校を核とした地域づくり」は、学校応援団をつくることではありません。

- 地域学校協働活動や学校運営協議会は、学校が忙しくて困っているから、お手伝いをする応援団になることではありません。
- 地域住民のつながりをより強めて、しっかりとした地域づくり、つながりづくり、仲間づくりを進めることです。
- 学校や子どもたちと一緒に地域のために汗を流す人々を増やすということです。
- これらをとおして、子どもたちに地域への愛着心を育て、地域づくりの担い手を育成することにつながります。

「学校を核とした地域づくり」のために各地域でできる工夫や取組は？

- ★今までやってきたことを大切に継続することです。
- ★新しいことをやる必要はなく、新しい気持ちで活動することです。
- ★「地域の人、ボランティアさん」ではなく、「固有名詞」で語り合えることです。
- ★口の字型に机を並べた堅苦しい会議ではなく、もっとラフな話し合いをすることです。

## 2. コーディネートのコツ

### 「地域・学校はそれぞれだ」

地域によって、人によってできることは違います。みんなと同じことをしなくても良いです。温度差があるのは当然のことで、理解の仕方や受け取り方も異なっています。

- ★自分がやりたいことをやるのが1番です！自分が楽しいことをやりましょう。
- ★マニュアルを作っても意味がありません。毎年やることも変わるため、決まったものはありません。
- ★平等・公平を考えるとコーディネートは難しいです。「公正」がコーディネートの基本です。

## 3. 各地のコーディネーターが実践していること

- ① 積極的に雑談しています。
- ② 地元のイベントなど、どこにでも顔を出します。
- ③ 誰にでも元気よく挨拶をします。
- ④ まずは自分が楽しむことを1番に考えています。



## 4. 各地の事例

### 栃木市立大宮南小学校



学校運営協議会委員，スクールガード，読み聞かせボランティア，PTA 本部役員，教職員などが参加し，ボランティア顔合わせ会を実施しました。

⇒教職員とボランティアの顔の見える関係ができ，ボランティアを頼みやすくなりました。例えば，ミシンボランティアの活動は1回で終わる予定でしたが，担任からもう一度支援をお願いし，ボランティアの方が快諾してくださり，スムーズに授業を進めることができました。

### 日光市立轟小学校



日光市轟地区は地域のまとまりが強く，住民の絆が強いと言われています。轟小学校では地域の人々がごく普通に学校を支えており，地域の学校として機能しています。また，近世後期に，二宮尊徳がむらづくりを進めた拠点となった地域でもあります。地域の人々や保護者からも「自分たちの学校だ」という気持ちや心を感じられ，「良い学校は良い地域にある」という風土を，地域・学校・保護者が支えています。

## 5. 地域人材の育成

学校の教育活動では，仲間とともに課題を解決することを通じて地域づくりのトレーニングをしています。学級活動や全校集会，運動会，修学旅行などの「特別活動」は，地域で仲良く暮らすための「地域づくりの基礎力」をつくっています。多様な他者との協働，社会参画，課題解決，合意形成など，地域づくりに欠かせない能力の育成につながっています。

## 6. 研修アンケートより、今後に生かしたいこと・感想

### 《コーディネーター》

- ・1人1人を知ることから始めてみようと思います。
- ・地域を元気にするためにはどうするかを子どもたちとも話し合ってみたいです。
- ・もっと教職員と話ができるようになりたいと思います。
- ・肩の力を抜いて活動ができそうです。
- ・他の委員とも内容を共有し、コーディネーターの今後の在り方を考えていきたいです。
- ・もっとラフに、自由に活動していいんだなと強く思いました。

### 《教職員》

- ・「口の字型」での会議の形を見直していきたいです。
- ・地域協議会において委員の方が話しやすく、楽しい雰囲気を実施できるよう改善していきたいです。
- ・人と人との関係づくりが第一歩であるということに、とても納得しました。地域の方の協力をいただくことも多いですが、保護者との関係づくりにも活かしていきたいです。
- ・固有名詞でつながることを意識していきたいです。
- ・学校で行っている特別活動が地域づくりになっていることを、教職員が再確認して実施していきたいです。
- ・型にはめようとせず、必要なことに対して素直に行動することが大切で、それで良いということを学びました。

## おしらせ

魅力協の活動には、推進員さんやボランティアさんなど、地域のみなさまの協力が欠かせないからこそ、協議会ごとにさまざまな工夫をして活動していただいていることと思います。

**活動にあたり「このような方法があります」というアイデアや事例を集めています。(今後の通信等で共有いたします)QRコードから、ぜひ各協議会で行っている工夫等を共有していただけますと幸いです。**

(協議会関係者のどなたがお答えいただいても、また、複数人がお答えいただいてもけっこうです。「内容が重複してしまうかも…」などの心配をせずに、お気軽にご入力いただけますと幸いです。)

魅力協に関わる方々が、やりがいと楽しさをもって活動していただけることが何より大切なことだと感じています。より多くの方々に魅力協の活動を知っていただき、協力者の増加につながるよう、そして、活動の楽しさややりがいを感じていただけるよう、情報発信等を行っていきます。

**8月31日までを募集期間と**

**させていただきます。**

**こちらからアイデアや事例の  
入力をお願いします。**



お問い合わせ・通信の感想やご意見など:宇都宮市教育委員会事務局

生涯学習課 電話 028-632-2674 メール u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp

学校教育課 電話 028-632-2728 メール u4602@city.utsunomiya.tochigi.jp